

光免疫療法が狙い撃ち

福井大病院、県内で初実施



光免疫療法について説明する成田准教授(左)ら
18日、永平寺町の福井大松岡キャンパス

薬剤投与、レーザー光照射

頭頸部の一部対象

福井大医学部附属病院(永平寺町)は18日、喉や鼻、口などの頭頸部のがんに対する新たな治療法「光免疫療法」を、県内の医療機関で初めて実施したと発表した。現時点で適用できるのは、抗がん剤や放射線など従来の治療後に再発し手術もできないケースなどに限られるが、担当の医師は「これまで治療の手だてがなかった人の希望になる」と話している。(高村友基)

光免疫療法は、がん細胞の表面に結合する抗体と、光に反応する色素を組み合わせた薬剤を点滴で投与し、その後、レーザー光を体の表面から、針を刺して腫瘍の内部から照射する。色素の化学反応により、がん細胞だけを破壊する仕組み。治療1回当たりの照射時間は腫瘍の大きさによって変わり、短い場合は数分で終わる。

2020年に他の治療法

がない頭頸部がんについての公的医療保険の対象となった。一方、腫瘍の位置が目や大動脈に近い場合などは受けられないほか、のどの腫れや光過敏症などの合併症が起こることがある。福井大医学部附属病院は17日に、顎の下に11号ほどの腫瘍がある60代男性に対して治療を行い、レーザー光を約50分照射した。18日に福井大松岡キャンパス(永平寺町)で記者会見し

がん光免疫療法の仕組み



た同大医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科の成田憲彦准教授(51)によると、照射を終えた時点で腫瘍の大きさは

1号以上小さくなったといふ。成田准教授は「(これまで)の症例で」完治するのは

1、2割だが、これまで治療できなかったことを考えると画期的。他の部位のがんでも研究が進んでいて、伸びしろがある」と期待した。光免疫療法は米国立がん研究所の小林久隆医師が考案し、薬メデイカル(東京)が薬剤を販売。県内では福井大医学部附属病院でのみ受けられる。

男子ジュニア

仙石さん

(工大福井高)

バントワリングの世界選手権で準優勝した三原さん(左)と仙石さん(右)リバープール(俱バトン協会提供)

バントワリングの世界選手権で準優勝した三原さん(左)と仙石さん(右)リバープール(俱バトン協会提供) 17人、男子ジュニアには12人が出場した。